

学科	美容科	担当教員	宗像		
科目名	関係法規・制度	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	まずは法律に興味を持ち、自らの職業が法律とどのように関わっているか、重要性を知ってもらおう。				
授業回	学習内容			備 考	
1	法制度の概要 法の役割・形式・衛生法規・美容師法				
2	衛生行政の概要 意義と歴史 生活衛生行政の内容				
3	衛生行政を担う行政機関 厚生労働省・都道府県及び市町村・保健所				
4	美容師法 目的・用語・人に対する規定・施設に関する規定				
5	美容師法 立入検査と環境衛生監視員・行政処分・罰則				
6	美容師法関連法規 生活衛生関係営業に関する法律・労働基準法・消費者基本法・医師法				
7	受験対策 問題演習 過去問題解説				
8	受験対策 問題演習 過去問題解説				
到達目標	様々な法令行為を理解する基礎作りを身につけ、美容師として必要な法律・制度の常識を身に付ける				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の2/3)を下回る学生は受験することができない				
テキスト	関係法規・制度(日本理容美容教育センター) 美容司法関係法令集(日本理容美容教育センター) プリント				

学科	美容科	担当教員	星		
科目名	衛生管理（公衆衛生・環境衛生）	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	公衆衛生の歩みを学び保健所の役割や美容業との関連を学ぶ				
授業回	学習内容			備 考	
1	公衆衛生概論 意義 歴史			プリントあり	
2	公衆衛生概論 美容師との関係 保健所				
3	公衆衛生 保健) 母子保健 精神衛生				
4	公衆衛生 保健) 成人・高齢者保護				
5	環境衛生 概論 空気				
6	環境衛生 衣服 住居				
7	環境衛生上下水道 廃棄物 衛生害虫 環境保全				
8	まとめ 受験対策				
到達目標	美容業にとって欠かすことのできない公衆衛生について学び、統計資料の見方を身に付け、保健所の機能と美容業とのかかわりを理解する				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	衛生管理（日本理容美容教育センター） プリント				

学科	美容科	担当教員	星		
科目名	衛生管理（感染症）	学 年	2	実施時期	前・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	病原菌の性質と感染経路を理解する・啓蒙活動の準備もする				
授業回	学習内容			備 考	
1	第1章 第1節 人と感染症 歴史・法律・分類				
2	第1章 第2節 病原微生物 種類・形・構造・増殖				
3	第1章 第3節 感染症の予防 感受性・汚染~発症・常在細菌叢				
4	第1章 第3節 感染症の予防 免疫・感染症発生の要因・感染症予防				
5	第2章 第1節 美容と感染症 第2章 第2節 空気飛沫で感染する感染症				
6	第2章 第2節 飲食物から感染する感染症 第2章 第2節 血液等から感染する感染症				
7	第2章 第2節 動物節足動物から感染する感染症 第2章 第3節 感染予防対策の例				
8	まとめ 受験対策				
到達目標	感染症の種類,構造,成分などそれぞれの特徴をとらえ、人体の免疫や予防接種での抵抗力を理解することで感染所にかからないために講じる対処法を理解する				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	衛生管理（日本理容美容教育センター） プリント				

学科	美容科	担当教員	星		
科目名	衛生管理（衛生管理技術）	学 年	2	実施時期	前・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	消毒法と微生物の性質を知り、適切な消毒法を選択できるようにする				
授業回	学習内容			備 考	
1	第1章 第1節 消毒 第2節 意義				
2	第1章 第3節 美容の業務と消毒の関係 第4節 消毒法				
3	第2章 第2節 化学的消毒法 第3節 優れた消毒法				
4	第2章 第1節 理学的消毒法				
5	第3章 第1節 各種消毒法				
6	第3章 第2節 美容所の消毒の実際 第3節 美容所の清潔法の実際				
7	第5編 衛生管理の実施例				
8	まとめ 受験対策				
到達目標	消毒液の特徴を把握し、美容師法や美容師法施行規則に則って、お客様や美容師自身が感染から身を守れることができるようになる				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	衛生管理（日本理容美容教育センター） プリント				

学科	美容科	担当教員	西		
科目名	保健（人体）	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択の別	必修	授業時間 （単位）	15
教育目標・ねらい	人体の構造（解剖学）と機能（生理学）について具体的な知識を知る				
授業回	学習内容			備 考	
1	第1章 頭部・顔部・頸部の体表解剖学 第2章 骨格器系について理解する。				
2	第3章 筋系				
3	第4章 神経系				
4	第5章 感覚器系				
5	第6章 血液・循環器系				
6	第7章 呼吸器系				
7	第8章 消化器系				
8	人体の構造及び機能に関して、まとめと問題。解説及び解答				
到達目標	美容師として頭や顔を中心とする人間の美と健康に携わるために、必要な人体の基礎知識を身に付ける				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	保健（日本理容美容教育センター）				

学科	美容科	担当教員	西		
科目名	保健（皮膚科学）	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ねらい	皮膚と皮膚の付属機関について、美容業の特徴とともに基礎知識を学ぶ				
授業回	学習内容			備 考	
1	第1章 皮膚の構造 確認テスト			プリント	
2	第2章 皮膚付属機関の構造 確認テスト				
3	第3章 皮膚の循環器系と神経系 確認テスト				
4	第4章 皮膚と皮膚の付属機関の生理機能				
5	第5章 皮膚と皮膚の付属機関の保健				
6	第6章 皮膚と皮膚の付属機関の疾患				
7	過去問・問題演習及びその解説 国家試験の解き方・勉強の仕方			プリント	
8	過去問・問題演習及びその解説 国家試験の解き方・勉強の仕方				
到達目標	美容師として施術や薬品からの皮膚への影響を理解し、お客様の頭皮・毛髪・肌の健康管理ができる知識を身に付ける				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	保健（日本理容美容教育センター）				

学科	美容科	担当教員	村松		
科目名	香粧品化学	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	香粧品の性状や分類、安全性などを学び、美容師として、必要な基礎知識を学ぶ				
授業回	学習内容			備 考	
1～3	1章 香粧品概論・香粧品化学を理解するための基礎化学 (1物質の構成・2物質(水)の構造)			まとめプリント 練習問題	
4～6	香粧品化学を理解するための基礎化学 (3溶解とコロイド～7たんぱく質)			まとめプリント 練習問題	
7～8	2章 香粧品用原料 (1節香粧品の対象となる人体各部の性状～6節色材)			まとめプリント 練習問題	
9～10	2章 香粧品用原料 (7節香料～9節ネイル、まつ毛のエクステンション用材 料)・3章 基礎香粧品			まとめプリント 練習問題	
11～12	4章 メイクアップ用香粧品・ 5章 頭皮・毛髪用香粧品 (1節シャンプー剤～3節パーマ剤)			まとめプリント 練習問題	
13	5章 頭皮・毛髪用香粧品 (4節ヘアカラー製品～5節育毛剤) 6章 芳香製品と特殊香粧品			まとめプリント 練習問題	
14	香粧品化学のまとめ・総合演習 (1)			まとめプリント 練習問題	
15	香粧品化学のまとめ・総合演習 (2)			まとめプリント 練習問題	
到達目標	香粧品の成り立ち、性状、使用目的や香粧品分類の定義、社会的意義や特性、 法的な根拠、製品の安訂正を含めた安全性を理解する				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の2/3)を下回る学生は受験することが できない				
テキスト	香粧品化学(日本理容美容教育センター) プリント				

学科	美容科	担当教員	星野		
科目名	文化論（美容文化論）	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	日本・西洋のヘア・メイク・服装の移り変わりを学ぶ				
授業回	学習内容			備 考	
1	日本の理容業・美容業の歴史				
2	ファッション文化史（日本編） 縄文・弥生・古墳時代 中世・近世Ⅰ・Ⅱ				
3	ファッション文化史（日本編） 近代（明治・大正・昭和20年まで）				
4	ファッション文化史（日本編） 現代（1945～1970年代）				
5	ファッション文化史（日本編） 現代（1980年代～現在）				
6	ファッション文化史（西洋編） 古代エジプト、古代ギリシャ・ローマ 古代ゲルマン、中世ヨーロッパ				
7	ファッション文化史（西洋編） 近世・近代				
8	ファッション文化史（西洋編） 現代				
9	礼装の種類				
10	まとめ				
11	国家試験対策①				
到達目標	現代までの髪型・メイク・服装の変化の過程を理解し、美の成り立ちやあり方を知り、 新しいデザインの創造の糧を身に付ける				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することが できない				
テキスト	文化論（日本理容美容教育センター）プリント				

学科	美容科	担当教員	大塩		
科目名	文化論（絵画法とデッサン）	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	デッサンを通して描画力、表現力、観察力、集中力、持久力を身につける。				
授業回	学習内容				備 考
1	【自画像練習】1年次の復習 顔のパーツを描く よく観察し、立体感や色味の濃淡等を捉える。				
2	【自画像実践】鉛筆デッサンとコラージュ技法 “自分らしい”自画像作品を制作する。取材。エスキース。				
3	【自画像実践】鉛筆デッサンとコラージュ技法 “自分らしい”自画像作品の制作、発表、鑑賞、講評				
4	【水彩デッサン】絵の具を使った描画法について				
5	【水彩デッサン】絵の具を使った描画法について				
6	【ヘアデザイン画】 全国理容美容学生技術大会 理容師・美容師養成施設 学生の部への出品テーマに沿った作品制作に向けた取材、下絵の制作				
7	【ヘアデザイン画】 作品制作				
8	【ヘアデザイン画】 作品の制作、発表、鑑賞、講評				
到達目標	観察力・表現力を身につけ高める。一つの作品に長い時間をかけて取り組み、持久性のある集中力を身につける。人体の構成について、描画を通して理解する。				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は評価対象としない				
テキスト	プリント				

学科	美容科	担当教員	大塩		
科目名	文化論（造形学）	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	表現力、構成力を身につける				
授業回	学習内容			備 考	
1	【デザインの基礎】色彩平面構成 限られた色数を使い、任意の雑誌の切り抜きや写真を 再構成し描画				
2	【デザインの基礎】立体構成 コピー用紙で実際に装着できる帽子又はヘッドドレスの制作				
3	【レリーフ造形】 メイクマスクを使った半立体造形の作成				
4	【レリーフ造形】 メイクマスクを使った半立体造形の作成、発表、鑑賞、講評				
5	【広告デザイン】 雑誌の見開き面を構成し作成				
6	【広告デザイン】 雑誌の見開き面の作成、発表、鑑賞。				
到達目標	構成力、表現力・発想力を作品にかたちとして残すことができる。				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は評価対象としない				
テキスト	プリント				

学科	美容科	担当教員	深井		
科目名	運営管理（店舗設計）	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	美容師として、技術提供の場である店舗の魅力と価値および演出手法を学ぶ				
授業回	学習内容			備 考	
1	・店舗力の価値 ・マーケット動向 ・未来展望	店舗写真のスライド鑑賞 美容業界の変遷とマーケット動向 次世代型理美容サロンの展望			
2	・店舗レイアウト	人間行動の心理と機能 レイアウトの比較（討論形式）			
3	・店舗レイアウト ・法的基礎知識	人間行動の心理と機能 レイアウトの比較（討論形式） 理美容師法と建築基準法			
4	・色 ・光 ・演出 色と光の基礎知識 レポート提出	相互の関係と演出手法			
5	・基本レイアウトの知識 基本の知識作業寸法 作成課題サロンの出題（ワークシート）説明	動線（サービス）計画			
6	・課題に基づくコンセプトレイアウトの作成 サロンのコンセプト(ブランディング) 作成 コンセプトに基づいたサロンレイアウト作成				
7	・課題に基づくコンセプトレイアウトの作成 課題サロン作成のためのディスカッション（グループ） サロンのコンセプト(ブランディング) 作成 コンセプトに基づいたサロンレイアウト作成				
8	・課題サロン作成 ・課題サロンの発表準備 ・グループ発表 グループによるプレゼンテーション ・ディスカッション				
到達目標	美容師として、技術提供の場である店舗の魅力と価値および演出手法を学び、 お客さま視点でのサービス価値向上の育成を図るための方法を身に付ける				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	運営管理（日本理容美容教育センター） プリント				

学科	美容科		担当教員	阿見、高橋、中田、深井	
科目名	美容技術理論		学 年	2	実施時期 前期・後期
授業形態	演習		必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位) 120
教育目標・ ねらい	美容技術理論の基礎とともに、技術内容ともあわせて理解することが出来るようにする。				
授業時間数	学習内容			備 考	
1～5	序章・1章・2章	<ul style="list-style-type: none"> ・美容技術理論を学ぶにあたって ・美容用具 ・シャンプーイング 			
6～10	3章～5章	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘアデザイン ・ヘアカッティング ・パーマメントウエービング 			
11～15	6章～8章	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘアセッティング ・ヘアカラーリング ・エステティック 			
16	学期末試験	前期末学科試験			
17～22	9章～11章	<ul style="list-style-type: none"> ・ネイル技術 ・メイクアップ ・日本髪 			
23～29	国家試験対策授業	<ul style="list-style-type: none"> ・美容技術理論1 ・美容技術理論2 			
30	学期末試験	前・後期期末学科試験			
到達目標	美容技術は、人を対象として直接皮膚に触れたり、刃物を使うことから、どの技術も習練が必要であり、何より安全性が必要とされる。そのために技術理論の意義を十分理解し、美容師としての基礎的知識を習得する。				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の2/3)を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「美容技術理論1・2」				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる理容師養成の観点から授業を行う				

学科	美容科	担当教員	阿見、高橋、中田、深井		
科目名	美容実習	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	300
教育目標・ ねらい	理容技術理論の基礎とともに、技術内容ともあわせて理解することが出来るようにする。				
授業回	学習内容			備 考	
1～6	リアシャンプー	リアシャンプーを通じて、技術姿勢やお客様に快感を与えられるようになる為に、シャンプー理論と技術ならびに職業人として、お客様から好感を持たれる接客力の習得。			18時間
7～12	ワインディング (デザイン巻き)	国家試験合格を見据えながらデザインワインディングを巻くために、必要な技術の習得。			12
13～18	レイヤーカットスタイル	国家試験合格を見据えながらレイヤーカットスタイル(試験課題)をデザインするために、必要なヘアカット理論と基礎カット技術の習得。			12
19～24	ヘッドスパ	ヘッドスパを通じて、シャンプー台の使い方や技術姿勢、お客様に快感を与えられるようになる為に、シャンプー理論と技術ならびに職業人として、お客様から好感を持たれる接客力の習得。			12
25～31	オールウエーブ セッティング	オールウエーブセッティング技術に必要な理論ならびにオールウエーブセッティング技術(フィンガーウエーブ、ピンカール)を習得する。			18
32～59	資格試験課題 (第1課題)	国家試験合格レベルのレイヤースタイルカットに必要なヘアカット理論と基礎カット技術を学ぶ。			142
60～72	資格試験課題 (第2課題)	国家試験合格レベルの第2課題に必要な技術を学ぶ。			72
到達目標	美容技術は、人を対象として直接皮膚に触れたり、刃物を使うことから、どの技術も習練が必要であり、何より安全性が必要とされる。そのために技術理論の意義を十分理解し、美容師としての基礎的技能を習得する。				
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う				

学科	美容科	担当教員	齋藤		
科目名	芸術・ファッション（美容色彩学）	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	色彩の基礎からのヘアカラーへのつながりの理解と色をイメージする力を養う				
授業回	学習内容			備 考	
1・2	一年生の時に学んだ色彩学のヘアカラーへの落とし込み				
3・4	美翔祭に向けてのカラーイメージ（色のイメージ共有）				
5・6	パステルを使用した色づくり・イメージカラーの共有				
7	美翔祭のスタイルへのパステルを使ったイメージづくり				
8・9	カラー剤を使用したカラーチャートづくり（ブリーチ&カラー剤）				
10	ウィッグ塗布練習（トレーニングクリーム）				
11	ウィッグ塗布練習（ブリーチ）				
12	美翔祭(カラープロセスアドバイス)				
13・14	美翔祭モデルへのカラー実習				
15	美翔祭最終カラーチェック				
到達目標	美容師に必要な色彩・カラー知識・技術の習得				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は評価対象としない				
テキスト	プリント カラーチャート				

学科	美容科	担当教員	杉下		
科目名	芸術・ファッション（ファッション）	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	ファッションコーディネートの基本原理を学び、美容業におけるトータルコーディネートの方法を学ぶ				
授業回	学習内容				備 考
1	・ファッションコーディネートの基本原理				
2	・基本的なプロポーション 顔の表現、ポーズのつけ方を学ぶ ・年代別のイメージスタイリング				
3	・ファッショントレンドサイクル トレンドサイクル、トレンドの発生要因				
4	・表現方法の研究 イメージコラージュの作成				
5	・表現方法の研究 ディティール、素材表現、バランス、色などから表現の効果を知る				
6	・ヘアショー（美翔祭） スタイリングショーテーマ考察 モデルカルテ作成				
7	・ヘアショー（美翔祭） コーディネートチェック・修正				
8	・ヘアショー（美翔祭） コーディネート・ヘアメイクチェック・修正				
到達目標	ファッションコーディネートの基本原理を学び、ヘアショーを通してコンセプトに対しての衣装管理、スタイリング、ヘアメイクの作成を手掛け、オリジナリティーのある発送と表現方法を身に付ける				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は評価対象としない				
テキスト	プリント				

学科	美容科	担当教員	井川		
科目名	芸術・ファッション（広告宣伝）	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	マーケティングの一部、「広告活動」の重要性を理解。本講義では、今話題のサービスやヒット商品を取り上げ、そのヒット要因を解説、一方では、今社会が抱えている問題にスポットを当て、その解決策をグループで議論、発想力と伝える力を学ぶ。				
授業回	学習内容			備 考	
1~2	「広告の基礎知識」について ・メディアリテラシー（情報を読み解く力） ・各種メディアの特性を理解、その情報収集（取捨選択）と活用方法について知る				
3~5	情報モラルとメディアリテラシーについて 各メディアの特性を理解、SNSの効果的な使い方と注意点を学ぶ マーケティングと広告について マーケティング（4P、3C、STP）				
6~8	広告表現テクニックを学ぶ 購買心理と顧客満足（事例紹介） 相手を説得する効果的な表現方法とは、SPツールの作り方 今話題のヒット商品やサービスを分析、その裏側を探る。				
9~10	「情報収集」→「理解/判断」→「行動/表現」 「デザインレイアウトとコピー・ライティング」				
10~12	「広告表現テクニック」を学ぶ。 ～伝える技術を学ぶ～プレゼン能力を高める 心に響くキャッチコピーの作り方、プレゼンテクニックについて 問題解決とアイデア出しのフレームワークを紹介				
13~15	プレゼンテーションの実施「テーマ：未定」 （一人90秒プレゼン）～クラウドサービスを使って投票、結果発表				
到達目標	社会で汎用性スキル、「伝える力」を習得。問題解決、アイデア出しのフレームワークが学べる。幅広い業界知識が身に付く。各メディアの特性を理解、情報の取捨選択能力が高まる。自分の意見を論理的に説明できるようになる。				
評価方法	最終日に学生によるプレゼンを実施。内容について学生自身の投票（クラウドサービス利用）による自己評価を踏まえ、教員が100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は評価対象としない				
テキスト	プリント				

学科	美容科	担当教員	井川		
科目名	表現技術（情報処理（PC））	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 単位)	15
教育目標・ ねらい	必要な知識を身につけると同時に、プレゼンテーションツールとしてソフトが使えるようになる				
授業回	学習内容			備 考	
1	メディアリテラシー（情報を取捨選択） メディアの特性理解、情報収集と活用方法				
2	情報モラル（著作権、肖像権、個人情報等） SNSトラブルについて考える（LINE教材使用）				
3	ウインドウズ基本操作のネット活用読み解く				
4	ビジネス文書作成、各部名称～機能紹介、文字入力～書式設定、ファイル保存、ページ設定				
5	書式設定、表の挿入～編集、画像の挿入～テキストの折り返し				
6	Excel基礎、各部名称、データ入力、四則計算、達成率、構成比、オートフィル、SUM関数、絶対参照、表示形式の設定				
7	表作成、行・列の操作、シートの挿入、 関数、データベース（顧客管理、並べ替え、抽出）				
8	WordとExcelの確認テストの実施 ビジネス文書と売上表作成、全体の復習まで				
9	パワーポイントの基本操作 プレゼンテーションとは、スライド作成、編集、画像の挿入、アニメーション				
10	ビジネス美容科の紹介をパワポで作成 写真、図形、グラフの効果的な使い方				
11	ひとの心を動かすキャッチコピーについて 学校、ビジネス美容科、自分を表すキャッチコピーを考える				
12	キャッチコピーのプレゼンテーション実施（一人90秒）				
13	顧客満足について考える、見込み客～固定客へ （事例：ディズニー、リッツ、老舗旅館等）				
14	プレミアム、クーポン、サンプリング、POP、DM、店舗レイアウトと商品陳列				
15	ひとの心を動かす表現テクニック15事例を紹介				
到達目標	PC操作に必要な知識を身につけると同時に、エクセルやパワーポイントがツールとして使える				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は評価対象としない				
テキスト	プリント教材				

学科	美容科		担当教員	立花	
科目名	高度総合美容技術理論(毛髪化学)		学 年	2	実施時期 後期
授業形態	演習		必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位) 15
教育目標・ ねらい	サロン実務において必要な知識の習得				
授業回	学習内容			備 考	
1	化粧品の正しい理解	医薬品医療機器等法について学び、化粧品の定義を正しく理解する。			
2・3	シャンプーとトリートメントのリサーチ	現在、販売されているシャンプーやトリートメントのコンセプト、特徴、ターゲット層などを通してマーケティングを学ぶ。			
4・5	シャンプー成分の理解	実際にサロンや各家庭で使用しているシャンプーの成分の効果、効能、特徴などを学び、ニーズに合わせたシャンプーの提案力の修得。			
6～8	シャンプー作り	シャンプーの知識を用いて、コンセプト、ターゲット、内容成分などを決め、パッケージデザインを含め作成する。			
到達目標	美容技術の基礎をとなる理論の復習をし、就職後の実務において必要な知識を身につける				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は評価対象としない				
テキスト	ヘアケアマイスターブック				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員は20年以上の化粧品製造会社での実務歴を有し、サロンスタッフ(特にインターン)が施術する際に極めて重要な毛髪に関する実践的知識を伝える				

学科	美容科	担当教員	阿見、高橋、中田、深井		
科目名	高度総合美容技術実習	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	300
教育目標・ ねらい	美容技術の基礎的知識、技能を身につけ、ビューティークリエイターとして必要な応用する力と想像力を高める。				
授業回	学習内容				備 考
1～12	サロンスタイル 展開図 (ミディアムレイヤー)	髪のを自由に表現するために必要なカット技術とブロー セット技術を応用し、ミディアムスタイルを作成するための技術を 習得する。			36時間
13～24	サロンスタイル 展開図 (ウルフレイヤー)	同上			36
25～36	サロンスタイル 展開図 (ロング)	髪のを自由に表現するために必要なカット技術とブロー セット技術を応用し、ロングスタイルを作成するための技術を習得 する。			36
37～42	サロンスタイル 展開図 (ショート1)	髪のを自由に表現するために必要なカット技術とブロー セット技術を応用し、ショートスタイルを作成するための技術を習 得する。			24
43～47	サロンスタイル 展開図 (ショート2)	同上			24
48～60	サロンスタイル 展開図 (メンズマッシュ)	同上			36
61～72	サロンスタイル 展開図 (ベリーショート)	同上			36
73～84	サロンスタイル ヴァレイアージュ カラー	同上			36
80～85	作品撮影	自身の作品を記録するために必要な撮影技術を学ぶ。			12
86～90	来客実習	教員による施術 (シャンプー、マッサージ、シェービング、ブロー) の サポートを行い、お客様からの信頼を得るプロセスを実践的に経験 する。			24
到達目標	ヘアスタイルを立体的に観測し、ヘアデザインの構造と技法を読み解く能力を活かし、ヘアスタイルをカタチにする技術を習得する。				
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数 (全体の4/5) を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、基礎技術をさらにブラッシュアップした創造的なスタイル作成の指導を行う				